

令和8年度第1回三宅町教育委員会 会議録

開催日 令和8年7月22日（水）

午後3時00分～午後4時30分

場 所 Mi iMo3階 コミュニティルーム2

出席委員 大泉志保・甲村真理子・小坂井佳代・鈴木みどり・福島哲也

欠席委員 なし

事務局等 幸田局長、出口課長、三田政策監、日置指導主事、長谷川係長

傍 聴 者 なし

○教育長開会挨拶挨拶

・夏休みの期間について

三宅町の教育長に就任して、夏休み期間が8月31日までであることに驚いた、大阪ではまずなかった。授業時数の心配はあるが、短くすることは考えられない。7月17日から8月31日の休み。この暑さで真っ赤な顔して登校する児童を見ていると危険も感じる。

議題

【議案】

議案を最後にして、報告から進めます。

○議案1：令和9年度 三宅小学校教科用図書の採択について

⇒ 日置指導主事より説明。

- ・令和5年度に採択され、令和6．7．8年度と同じ出版社の教科書を使用している。
- ・採択は4年に1回であり、令和9年度も同じ出版社の教科書を使用することに承認をいただきたい。

→ 承認

○議案2：事務規則等の改正について

⇒ 長谷川係長より説明。

- ・令和8年度より教育委員会が社会教育課と教育総務課の2課体制になったことに伴う規則、規程の改正。

→ 承認

【報告】

○報告 1：令和 8 年度 全国学力・学習状況調査について

⇒ 日置指導主事より報告。

・令和 8 年度の速報値の報告。

小坂井委員：

（成績分布について）例年は上位の山（棒グラフで突出している箇所）と下位の山に分かれていると昨年説明があったが、今回は上位の山がない。なぜ下の方に偏ったのか。

日置指導主事：

先生はどの児童か把握ができるので、個別対応もできる。普段の取り組みなどフォローが必要であれば対応していただきたいと思う。

大泉教育長：

調査対象の学年（6 年生）の特徴として、1 年生から単学級。学力的につまづきが生じるのではという課題はあった。

ただ、学力はあくまで一面。授業の様子を見に行けば、問題があるようには感じなかった。先生も児童の学習に向き合う力を引き出せるよう指導をしていると思う。

課題はあるので、そこはしっかりと分析してもらおうと思う。

甲村委員：

無回答率が 0%の項目が増えている。問題に対して何かしら答えたということ。正解かどうかではなく、一生懸命考えた形跡が見て取れるのは良いところだと思う。

正答数についても、0 問、1 問、2 問が減っているのは、日々の積み重ねがあったからこそだと思う。全く答えられない児童が減っているというところに先生方の努力を感じる。

次は正解に向かって記述していく、書くことが楽しいとなれば、子ども達もさらに生き生きとなっていくのではないかと思う。

とある先生は、毎日日記のようなものを書かせてくれて、良いところ、悪いところを全部評価してくれた。

夏休みの宿題で、選択制のものができた。苦手だからしない、やりたくないからしないことで書くことが減ってきていないかというのは心配。

福島委員：

この結果は評価してあげる点がいっぱいあるんじゃないかなっていうふう思う。例えば、算数で奈良県・全国と比較して 10 ポイント以上下回っている問題が 16 問中 8 問あるが、正答率 100%の問題がある。無回答率が低いものも、選択式だけではなく、記述式でもちゃんと書いている。この試験

に対して取り組もうとしてるということを感じる。

国語の方でも 13 問中 5 問は 10 ポイント以上差をつけられているが、全国の正答率を上回ってるところもある。しかも、短答式なので何か考えを書いてる。試験時間中、一生懸命に頑張ったと感じられる。褒めてあげてほしいと思います。

大泉教育長：

また 10 月になるが、分析してものをお見せします。生活アンケートの結果も入ってきます。

○報告 2：令和 8 年度 特別支援学級教育課程について

⇒ 日置指導主事より報告。

甲村委員：

本校では児童の約 9%が支援級となっているが、割合としてはどうか。全国平均と比べてや、県下の学校に比べてどうか。全体的に多くなっているのか。

福島委員：

国の方針で減らす動きがあった。在籍をやめる方もいる。

小坂井委員：

幼稚園で手厚くしすぎている。幼稚園の方の支援に関しても今すごく揺れ動いてて。子ども達が座って話を聞けるようにしようという目標が幼稚園にあるが、不適切保育や虐待などが取り沙汰されて、椅子に座って話をじっと聞けというどうかという議論もあがっている。

大泉教育長：

幼小の連携が足りていないと思う。小学校の先生という幼稚園の先生がこのことについてしっかり詰めることがすごく大事だと思っている。

小坂井委員：

支援級から通常級に戻ることもあるか。

日置指導主事：

学年の途中はない。中学校へ行く時にもう一度その審議にかけて、移る児童生徒はいる。

小坂井委員：

学年が上がるにつれて、良い社会性が身についてきた子たちを集団に戻すということも大切だと思う。できるようにはできないか。

日置指導主事：

実は途中で通級による指導に変えたいという話は出ている。不可能ということではない。今年度、答申にかけてほしいという方がいらっしゃる。変えていくこともできると思う。

小坂井委員：

そうなれば、そのサポートがすごく大事になる。支援級と通常級のための垣根が低くなるような架け橋になるサポートがあれば支援級を特別と感ぜないような環境を作れるのではないか。

日置指導主事：

学校では、支援級はどんなことをしているのか、支援級とは何かというのを理解してもらえ、機会は設けるようにされていると思う。

小坂井委員：

支援級、通常級の間で教室の行き来はできるのか。

日置指導主事：

支援級に立ち入ってはいけない、といった決まりはない。そこに壁がないのが三宅小学校の良いところ。そういう交流があるところを大事にしていければと思う。

大泉教育長：

（資料に上がっている）児童以外にも支援や声かけがいる児童もいる。そういった児童へも行き届くよう体制をとっている三宅小学校は他と比べても手厚いと思われる。

今年来られた校長先生は支援教育に力を入れたいと思っているようで、先生の数が少ないという課題はあるが、先生の配置にも気を遣っておられる。

私が三宅小学校の支援教育について良いなと感じているのは、シームレスであるところ。支援級の児童は支援級へ、不登校の児童はメタセコイヤ（不登校支援）が担当する、職員室に入ってはいけない、そういった縛りがなくなってきた。「どこで過ごしてもいいんだよ」という雰囲気がある。

今度の学校訪問学校でも見ていただければと思います。

○報告 3：令和 8 年度 9 月補正予算について

⇒ 長谷川係長より報告

○事務連絡：経過報告および当面の日程

・学校訪問について

⇒ 日置指導主事より説明。

・研修について

⇒ 三田教育政策監より説明。

・経過報告及び当面の日程について

⇒ 出口課長より説明